

大内
興立
十杉傳
第二輯
卷一

15
202
1





東坡學樓

九

十松傳後編序

寒葉齋

夫事出於千載之前而傳於千載之後者
 莫如書古之事彼是此非其善其惡觀古
 今如旦暮者雖隻言卓犖一書於史冊百
 世而不泯也是故史官筆誅口伐於筆門
 圭竇之間而老奸巨猾心喪膽落者恃此
 權而制之也余友春水常執此權而著書

治三年十月十日 寒葉齋

居多然所其著者皆鄙俚之裨說固雖非
本傳正史所言之事所述之辭亦可以為
老奸巨猾之針砭亦可以為義夫貞士之
鼓吹所謂不龜手之藥用異而功倍者非
耶乃春水所著之書竟不降尋常裨說之
窠窟適可以與正史本傳並馳豈不更偉
乎哉春水著十松傳後編將上梓而公布

夏戾太初見三國志遽壞已作孟浩然微
雲踈雨之兩語遂令一坐罷唱今此書之
出也服善有如此二人者亦未可知也是
余之所以樂序道也頃著十松傳以行於
世求之之人肩摩轂擊鱗籍而不絕因
亦望其後編嗚呼不知足者固人之恒情
得隴而望蜀亦猶好酒者必有婪尾之情

寧可附剗剗氏而醉蕉葉量耳

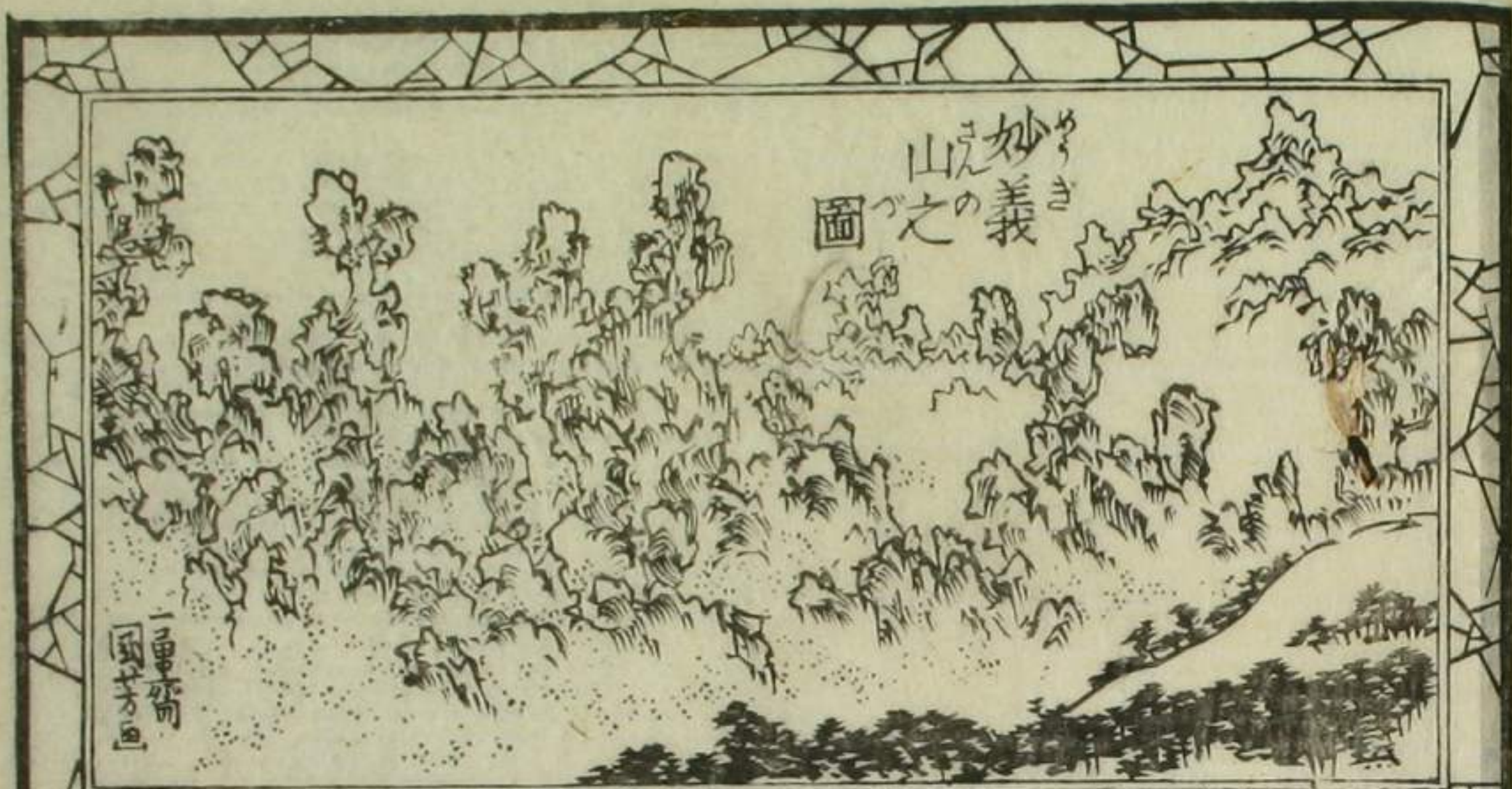
於東都翠橋秋光菴

文亭主人

宮崎綾繼序

秋光菴桂素

綾繼 生印



海龍曾欺共內蛙

大鵬張翅繞天涯

強中更有強中手

莫向人前誇自誇



仁風四方一とて
賢士萬方よ
臨来る
おまを
巻中
十男の中れ
一勇温順の
君子あり

杉山主水

小雪

三島
四馬



美見の化粧
かつらあり
一個の
大丈夫
壮健の少年
貞標の美婦

杉倉伴作

於千賀



東都狂訓亭為永春水新編釋史目錄

尼子七國士傳 全本五輯 一勇齋主人國芳画
九牛 二十五冊

小松賢將仁行錄 全本三編 近日發板
十五卷

荒川仁勇傳 全十冊 歌川國芳画
哥川國九 出来関市

木曾義仲昂臣錄第三編 一筆葺英泉画

新田功業柱石傳 全本五編 前北齋為一老人画
二十冊

製本發販所 江戸書林 文永堂 全梓
文溪堂

大内 十杉傳卷之六
興隆

第十一回 做桃園三個結義

礼記王制の條にいふ。五刑の註と聽や云。淫重の序と意論。淺深の量と
偵測と。知縣卦左工門かむたの考ハ。その罪をさと斬害。有罪の考と測
え。胸中正。かろき。眸子暗と且る。既に罪の杉谷多門。茂平父子と
破んとせ。雑式小奴とら。倒して。踊入。八年の頃。十七八。少年。て。まご
總角にあり。替力飽。を。逞は。骨柄。も。天晴の。勇士。と。ま。は。及。り。ま。ご
梶木麻九郎。と。名。を。て。床。加。と。離。と。ま。あり。這。奴。ハ。何。等。の。白。杖。る。と。ハ。新。大。罪
と。犯。る。賊。と。罰。さ。る。此。場。へ。夫。庭。不。あ。り。乱。妨。る。と。や。察。さ。る。所。此。賊。等。が。族
の。考。み。て。あり。ぬ。と。色。搦。め。と。敷。團。ハ。ま。ご。雑。式。等。ハ。左。右。より。あ。の。と。り。巻。と

伴ともせむ或はうら伏せ枝き床寄るもの。頰を扱と戻らざる人。碌々の
 景勢は恐怖して。霎時ハ寄も来さう。彼少年ハ馳よる。茂平父子が傳と
 幾夫とききばうち仰き。父子ハ歡びハ如何と詞とうひんとし。しが。中。雜武が
 むらくと踊りかまは隔られ。のり。茂平も懐けぬ。野ハ少年茂平と云うて
 跡の夏ハ心あざむ。たやく此場と逃去。其無實の。其。跡。あて。見々
 勸解ん。吾心とあひく。過と。り。あ。る。と。目。で。あ。る。中。雜武等と。扱。伏。る。茂
 平ハ。遂。て。あ。は。れ。の。も。い。も。心。ハ。懸。る。の。う。ろ。踏。蹴。し。し。が。念。地。ハ。女。見。小。雪。と。扶
 起。夫。本。の。際。へ。走。る。い。る。に。此。程。々。谷。の。邊。に。居。て。平。生。に。面。と。え。く。せ。思
 見。四。五。人。見。物。と。左。右。へ。こ。ひ。と。踊。る。本。り。狼。狽。する。小。雪。と。さ。ら。と。抱。た。て
 肩。に。か。か。る。に。何。ん。に。何。ん。に。足。を。振。放。さん。と。の。け。け。ども。元。丁。の。用。斐。る。た

女の奮力。手で彼等に敵と。或ハ。と。把。足。と。扱。走。る。い。ど。す。が
 傑。の。苦。と。免。る。て。程。も。多。く。思。見。を。抱。れ。て。氣。ハ。顛。倒。し。心。も。い。ど。
 さ。ら。し。前。後。も。こ。れ。ま。は。醉。る。が。ど。く。痴。る。が。ど。く。茂。平。も。俱。小。雪。と。依。る
 思。見。坐。九。郎。が。り。の。ま。や。女。見。小。雪。と。り。て。渾。家。に。る。え。ん。と。い。の。程。は。集。い。と。い
 る。た。破。落。戸。往。末。さ。も。学。ん。東。る。て。否。そ。り。て。其。後。も。折。み。る。て。小
 雪。と。捕。へ。漫。に。私。情。と。通。む。と。挑。め。る。う。と。も。風。ふ。袋。が。今。日。圖。ら。ば。無
 実。の。罪。に。此。場。へ。牽。引。刑。伐。は。行。る。と。快。と。い。ふ。本。ハ。野。若。が。あ。り。て
 端。り。命。と。佐。う。と。れ。ど。目。の。仇。と。る。吾。々。父。子。を。見。掠。て。黨。と。か。ら。ら。ひ
 女。見。と。奪。ひ。と。是。罪。と。論。む。渾。家。に。る。え。ん。と。巧。め。る。る。ぞ。度。莫。吾。を。が
 命。ハ。就。よ。る。た。の。う。と。渠。等。が。如。た。不。悔。ら。と。阿。答。と。と。て。あ。ら。ん。や。ハ。あ。と

追駈おひりお戻かえり。抵頼おたかバお父子おとこが命いのち。假令たとはお死にあらふも痛いたむこも
 足あらじとお踊おどりおもあらじはお任まりおてお逐おうおひおりお。是こをおるおりお雑ざつ式しき等らいおもあらじ重ぢゆう科か
 の囚おと人とおりお逃にげおるおるお吾われ々らのおもあらじ。梶かぢ木き根ね深ふかのお両りやう人にんがおあらじおるおるお越お度たとおり
 らんおとおあらじおのお迹あととお暮くらおてお進しん入にんとおすおまおバお彼か少せう年ねん八はちまおとおまおかりお。夫つま庭にわふお把とてお訂てい
 戻もりおあらじおとお幸さいのお拳けんとお固かめお。夜よ又またのおどおくおふお荒あらおまおるお巴ま了りやう得え大だい勢せいありおとおいおど
 此こ少せう年ねんにお速すみらおまおてお。進しん退たいのお度たとお喪さうへおりお。梶かぢ木きハお急いそてお刀たにおはおりお被ひ這た奴に両りやう良りやう
 小せう砍かん捨すたお。此こ騷さう動どうとお鎮ちんめおがおておとお。飛とかおらおんおとおとおりおしてお根ね深ふか臭くさ七しち袖そでと
 さらお渠き兩りやう刀たうとお帶たいるおるお。曩なうよりおとおまおるおとお被ひどお人にん一いつ個こもお過ありおぬおハお全ぜんく
 狂きやう氣きのお者ものにおもあらじ。深ふかきお仔こ細このおあらじおるお。雜ざつ式しき小せう奴にとおらおらお散ちらおまおるお。
 そのお仇かたがとお適あておとお留とどめおらおらおらお。是こをお罪つみ多おくお計はからおらお面おも持もちるお。渠き何なに程ほどのお勇ゆうあり

子こもおまおとお徳とく角かくのお少せう年ねんありお。吾われ々らにお向むかひおるお。其その時ときにお小せう砍かんもおまおるお。
 圖ずらおらおひおのおひおふお急いそむおるおとお住すめお大だい音おんあおびおてお言いはおるお。ハおやお少せう年ねん兼かね見けんれ
 汝なんぢあおらおまおとお吾われ々らハお此こ處ところるお。知ち縣けんのお目め代しろあおらお。罪つみあるお族うぢとおいおまおるお。そのお刑けい
 罰ばつふお行いくおハおまお公こう聽りやうのお法はうとおるお。何なにぞお私わがのお所ところ為ならおんお。あおらおれおとお汝なんぢ乱らんやお。
 警けい衛ゑいするおるお。歩ふ卒そつとお痛いためお。そのおえお罪つみあるお。茂もう平へい父ふ子こがお。健けん切せつ解かいてお逃にげおせおハお。
 上かみとお侮おご蔑めつしお且かつハおまおとお重ぢゆう科かのおりおのおにお荷おん贖じやくさおるお。そのお罪つみ死しとおりおてお償あらおまおるお。於おこ
 飽あらおまおらおぬお罪つみ人にんありお。然しかりおとおいおどもお徳とく角かくのお女むすめがお。拳けん動どう技ぎ羣ぐんるお。所ところはお愛あいて
 知ちとお通とひお。言ことはおまおあおらおまお兼かねすおらおんおとお。詰つりお身みバお少せう年ねんハお其その處ところハお蹲すん踞じやく泰たいくお。
 應おう行ぎやうとお言いはおるお。ハお律りつ火か急いそみおておそのお解かいとおおおらおらおにお暇いまおるお。斯かくハお計はからおらお
 心こころとお全ぜんくお野の心こころとお決きめお。まおとお公こう聽りやうとお侮おご蔑めつさおるお。心こころ底そこあおておらおまおるお。そおもおくお吾われハ

河内の国甲斐田の庄を領する。杉倉右門が二子ゆく。名と伴作と噂する。の。雅き時に父右門八人に討て果敢る。最期領地とす。も没収せらる。便るべき方るたき。遠く此地へ下り居て旧好あれ。茂平と特々。稍く人とり。なる片鄙は住居て。此の宿願も果さず。去年の春より花浴へ。辛苦に月日を送る。時至らねば。宿願する。果すとべらる。一回此処へ。茂平父子と訪人と。曩に此処る。御を路へ。来かり。し。一個の僧並樹の下に。住居する。何心ある。其も。その樹の蔭に休む。土地の者と。学す。弱官一個。未だ。何やら。底語が。むらへ。き。夏る。ねど。茂平。との。声。され。と。耳と。歌。く。ゆ。渠。苦。ハ。密。や。に。漸。く。中。て。危。き。所。と。逃。去。り。と。善。方。く。杉。谷。

ろりの弱官の。所為。ある。りと。知。縣。に。告。へ。渠。ハ。保。土。ヶ。谷。の。茂。平。許。み。浮。々。と。在。る。を。捕。へ。ら。し。て。鞫。問。さ。し。終。は。拷。問。の。苦。痛。は。仍。後。に。已。ま。る。所。為。あり。と。首。伏。し。る。ハ。此。此。の。梳。侍。今。日。杉。谷。ハ。河。原。に。て。首。刎。ら。る。に。定。ま。り。茂。平。ハ。渠。と。宿。せ。し。が。越。度。と。り。て。俱。々。に。首。刎。ら。れ。と。ゆ。い。ま。ぞ。と。低。語。バ。一。個。ガ。回。答。て。傍。も。愛。さ。れ。奇。計。と。り。て。足。下。を。傷。み。忽。ち。顛。倒。し。て。吉。吉。と。り。る。ぞ。吾。ハ。夫。より。此。驛。の。坐。九。郎。と。ん。の。ハ。の。と。特。々。と。隠。居。し。り。が。彼。坐。九。郎。ハ。茂。平。ガ。女。見。と。澤。家。に。せん。と。て。先。頃。より。群。居。と。語。ら。ひ。媒。さ。せ。れ。ど。女。見。ハ。元。より。親。の。茂。平。も。兼。ひ。む。と。怨。み。居。り。し。が。遠。奴。等。も。俱。ふ。首。刎。ら。る。ハ。不。便。な。ら。ず。も。心。地。よ。此。更。早。く。坐。九。郎。ハ。告。ぐ。ん。の。と。ゆ。り。早。く。西。と。東。へ。別。去。

つゝ。赴意と詳ふ。あつてと。又ども。悪計る。度圖。直ふ。かれ。時と
捕へ。く。あつて。茂平。父子。が。露命。且暮。迫る。もの。と。て。枝
葉。抱へ。き。時刻。後。まで。其。罪。死。致。す。千。六。海
とも。益。あら。と。あつて。足。不。任。せ。走。る。太。刀。把。ハ。あ。つ。て
又。と。見。ゆる。と。存。亡。危。急。一。挙。に。あり。瞬間。も。猶。勝。ハ。る。後。ハ
鬼。も。角。も。その。律。法。と。云。へ。と。斯。ハ。圖。ら。ひ。ゆる。罪。入。格。と
く。彼。処。の。賣。僧。が。詞。に。よ。ま。す。その。罪。を。ま。ふ。あ。つ。て。と。云。ふ。く
察。し。の。れ。と。い。と。懇。懇。に。演。々。を。麻。九。郎。に。言。ふ。あ。つ。て。眼。を
睜。て。声。あ。ら。げ。既。に。知。縣。の。決。断。あり。罪。咎。ハ。正。し。歴。々。と。校。者。共
を。佐。け。ん。と。て。黄。口。の。孺。子。何。さ。り。の。や。亦。も。白。浪。寺。で。強。盜。を。群

の。賊。め。て。あり。ぬ。へ。憎。き。奴。ら。と。と。搦。め。と。踊。り。あ。つ。て。真。七。が
再。び。と。と。と。止。め。さ。る。言。ふ。を。樵。木。主。渠。此。処。へ。來。て。乱。妨。を。せ。ハ
其。罪。重。し。と。い。ひ。る。先。ち。彼。処。の。徳。女。あ。つ。て。賣。僧。が。密。を。か。ら。み。て
穿。て。穿。た。馳。來。ぬ。と。その。ゆ。え。所。明。ら。る。を。將。虚。言。に。い。は。さ。る。べ。し
賣。僧。と。い。ひ。白。浪。寺。の。貪。筑。ふ。と。あ。つ。て。其。罪。と。あ。つ。て。量。る。は。彼。貪
筑。が。言。状。ゆ。と。漫。る。真。七。多。し。何。さ。る。仔細。の。あ。つ。て。と。言。ふ。敢。む
麻。九。郎。が。假。令。仔細。の。あ。つ。て。せ。よ。悉。く。決。断。す。る。の。と。足。下。ハ。渠
等。が。古。改。は。惑。ひ。と。ど。り。と。き。多。く。と。あ。つ。て。方。心。と。芳。也。嗟。々。と
冷。々。と。入。バ。真。七。面。と。赤。く。と。麻。九。郎。が。真。七。守。り。渠。等。が。言。状。に。惑
ひ。と。あ。つ。て。方。心。に。勞。さ。と。ハ。畢。竟。吾。と。悔。る。稟。伏。某。卑。賤。と。り。の。み

とも足下ふあると下司斯卑一むハ如何なる所謂ぞ。備痛一と敦國ハ
麻九郎肩と尊う。嗟古長一根深臭七足下何等の仔細あれ。渠
等には荷膽一同寮する。吾と罵る心意を知む。尾籠るいと急し。ちて
刀の柄と握るはあり。新しうとく入る所。威風凛々堂々たる。一個の
勇士忽然と矢本の裡へ踊り。曩より彼処で入受すれば互ふその
威と争ふはいと所謂るま。挙動する。さるふて其職ふありと云ふ。物
の理非善惡邪正の差別と知む。罪るま者と破んとする。愚蒙の知
縣が下司と云る。杉谷罪るま。所謂と吾ま。解んふよく笑ふ。吾ハ杉
坂藏人とて。諸国兵法修行して。遍歴する。武士るか。這般との真ふ
ふ。彼白浪寺へ業中。さる。毒惡好智の賣僧と云ふ。鑿みして

立退り。此杉谷が難と避逃呻吟一縁故も。吾を微細ふ笑ひ。り
是めても尚白浪寺と具負ふ。りて杉谷と罪せんとする。吾もま
命と捨ても渠と救入。僥倖あて吾切先と。身逃る。貪筑。限
合も天の興え。括して此処へ引めて来ぬれ。虚実ハ渠も問ふ。知れ
と所化貪筑と千筋の繩。縛めて其知へ突出せば。根深ハ是と。笑
ふ。ものも。左もあ。りるん。と笑と。會めど。麻九郎ハ。飲ひ。ど。君。ふ。汝。が。衆。人。に
過るる。其罪。此にあり。ま。貪筑。り。汝。を。括。して。罪。咎。ふ。所。見。と
罵。且。ば。藏。人。と。笑。く。呵。々。と。冷。々。笑。ひ。の。吾。ハ。こ。無。道。と。懲。り。て。仁。と。行。ふ。
い。で。此。此。に。罪。あ。ん。そ。を。弁。へ。さ。る。知。縣。が。不。明。彼。白。浪。寺。の。賊。徒。等
より。於。惡。む。ぎ。技。者。り。と。い。ひ。つ。多。門。が。健。ま。り。と。足。下。ハ。一。個。の

街祝勇壯
と誘るつて
程々谷の駅
究枉の
罪人と
走らば



賢士として。渠等が奸智小端多くも。殺さざると甘く危ふきよ。是る如縣
 の蒙昧なる。多く詞言解とも。頗る果ては。同く。是の奸計
 のて苦ませんも。圖らば。必し過のありて。人も怖れ寸罪を免れ。と
 持る。狗々ぞ。渠等も抱き。障らんとや。足下も在せと伴作と。見
 て馳り。現る。ふるりと多門伴作。迹み着て。踊り。夫逃すと。麻
 九郎が。雜式等と。おて。追強。巴。藏人。所々に。踏さ。連。歩。卒に
 ろ。倒。武藏相摸の境。信濃坂。て。要時。支え。透。伺。傍。る
 樹林の裡へ。隠。一。景。る。藏人伴作等。両側の勇者に。懲。さ。さ。歩
 卒ハ怖て。今ハ。一。足も。進。び。斯。て。渠等と。捕。逃。さん。と。頃。此。如
 等の農民と。促。信濃坂。樹林と。遙。遠。巻。く。その。往。先。と

探。る。かく。三。個。の。弱。官。ハ。是。る。杜。ふ。こ。け。入。て。要。く。息。と。休。め。ら。る。が
 多門ハ。さら。に。甦。生。し。心。地。に。ち。と。歡。び。て。藏。人。に。ら。ち。向。ひ。景。よ。和。殿
 の。言。さ。す。一。人。彼。小。畑。る。白。浪。寺。の。賊。主。と。な。め。其。族。と。も。盡。あ。り。と
 立。退。ま。し。と。ハ。天。晴。勇。敢。感。に。堪。ら。ず。吾。ハ。却。て。渠。等。が。虎。口。と。免。れ。て。這
 般。の。直。あり。ま。と。如。此。の。故。に。よ。り。運。命。拙。る。必。と。悟。り。その。罪
 る。で。罪。に。伏。し。既。今。日。河。原。小。て。首。刎。ら。ま。ん。と。志。さ。り。と。是。る。杉
 倉。伴。作。主。が。茂。平。父。子。と。救。ん。と。て。端。なく。乱。妨。せ。ら。ま。し。要。時。存。へ
 あり。る。所。和。殿。が。本。つ。く。危。急。の。難。と。救。ひ。あ。る。辱。る。現。に。再。生。の
 思。入。る。死。と。も。い。つ。で。忘。ま。ん。や。と。始。め。終。と。具。み。語。り。て。い。と。懇。懇
 に。謝。ら。ま。し。巴。藏。人。も。白。浪。寺。の。一。伍。一。什。と。物。語。り。ま。て。杉。倉。よ。ら。ち

向ひ。コト直バ和殿ハ總角の年。是吾に二ツ三ツ。若らんりのと曩の。卒
 動感ふるに。於餘をあり。某不肖なりと。以ど。斯不憶見。衆して。於谷
 姓。未歴ハ。倅も。詳小。安らると。苦く。於ハ。和殿が。素生。未歴と。語。玉
 い。某。秘も。漂流して。諸国と。巡るハ。鄙言に。良禽。樹木と。擇。て。病。
 良士ハ。主と。擇。て。仕。吾。管仲の。才。智。なくとも。諸侯に。齊の。桓公が。
 下。まの。良將。ありん。あ。も。是に。仕。えて。忠と。効。を。廢。せ。る。世と。發。せん。と。
 此に。も。頗る。大望。ありて。遍歴。る。せ。バ。往。先。あ。て。り。艱難。の。の。あ。ま。と。を。
 微力と。尽。して。是と。救。ひ。強。さと。擊。て。弱。さと。扶。く。さ。る。み。よ。の。小。細。の
 賣。僧。が。殘。忍。無。賴。と。る。る。に。忍。び。を。救。と。尽。して。行。な。し。夫。より。武。藏。へ。
 赴。きて。背。背。く。其。処。等。と。巡。る。果。は。無。食。之。越。人。と。通。り。か。は。白。

浪寺。ゆ。て。の。賊。等。が。刑。不。遭。と。り。街。の。風。説。置。々。嗟。訝。く。さ。ま。又
 こと。多。の。土地。の。人。に。その。律。決。と。問。ハ。如。此。と。る。り。とい。ハ。逃。ハ。逃。る。賣
 僧。が。奸。計。罪。な。れ。人。と。証。する。ぞ。と。心。に。慄。と。あ。み。所。へ。運。の。究。め。ら。彼。賣
 僧。が。何。処。等。有。漏。と。踏。居。り。某。と。して。逃。入。と。せ。ると。引。捕。て。括。
 あ。げ。証。拠。の。と。あ。と。引。て。往。バ。和。殿。ハ。知。縣。の。下。司。に。向。ひ。て。律。と。説
 て。居。り。要。と。そ。あ。ら。め。と。伺。ひ。下。司。ハ。於。疑。ひ。和。殿。を。も。証。人。と。す。
 某。生。来。心。短。く。さ。る。無。乃。の。さ。ま。と。して。要。時。も。堪。え。忍。び。々。夫。度
 に。其。処。へ。飛。入。た。る。も。さ。ら。は。浪。浪。等。ハ。愚。昧。ら。り。と。も。公。聽。の。官。人。る。吾。々
 此。処。に。隠。れ。居。とも。や。ら。探。さ。で。お。く。べき。る。れ。何。の。地。へ。も。此。と。隠
 さん。と。して。伴。作。小。藤。と。勸。め。和。殿。ハ。い。とも。案。察。し。た。英。雄。に。と。そ。在。る。と。

吾ハ箇様々めて、茂平父子と救ひゆり、と一伍一什と詳し語り、契
あふに此処に集會三個ののハ其姓に、ま杉の字と被りたる。是
さ入不測の因縁あり、両所ノ異見あつべしと云ふ。此と之家と其を
へき志ハいつともある。不肯る此と嫌忌多くハ三個兄弟の因と
あるん生と一時と違ふとも若、伴ありて死とるさ、後且先とらぬ
つとと誓と甘んと勇ましく、膝立直せお谷が、往昔桃園の義子、故
あるべしとぞ回答し、蔵人寛尔とらち笑きて、吾も弟ともあひ
は且願ふてもる、先使侍る、園らむ山野と扇とせ、その徒然と慰
さめんと里あて求め、酒ありと、腰るる袋とお、園た取り、さ
吸筒盡しを盟約の験となさんと、夫より三個ハ四方と拜し、天神地

祇に誓ひ、蔵人、多門と同年、蔵人先へ生るうら、是と兄と
多門と次と、伴作はま、その次と、約と固め、蔵人が、いさぐ早く立
まゐるん、かく誓とばなれぬ。三人一所、あえ、復侍と、園る、便り
悪し、吾ハ是より四国と徑巡る。あつて花洛へゆくと、あへ、此ハ
い、あ、と、問、か、つ、は、多門ハ、ゆ、て、宣、ふ、下、く、一、所、に、あ、ら、ん、ハ、便、り、あ、く、
見、つ、た、下、く、其、ハ、刀、と、さ、え、も、帶、さ、さ、る、ハ、此、容、に、て、路、を、往、ん、ハ、いと
学ん、束、な、く、あ、ら、う、商、人、に、打、扮、て、一、ま、が、花、洛、へ、登、る、べ、し、先、此、ハ、い、り、
あ、と、い、え、ま、は、伴、作、ハ、点、取、て、彼、處、に、あ、り、て、茂、平、父、子、が、禮、と、お、解、く、
逃、す、つ、と、何、地、へ、隠、ま、さ、り、た、り、や、いと、混、乱、と、往、方、と、あ、ら、渠、等、
父、子、ハ、捨、つ、た、考、ふ、あ、る、れ、が、其、ハ、その、往、方、と、探、し、ゆ、て、花、洛、へ、至、

再會すと云ふと。いふ多門はうち点次茂平父子に遇ふ。其國らむ
 病借てあふるた危難を被付る。勸解と云くまふ事と。いひ
 彼処を信とて。嗟不測や此樹林へ多くの人の入ると見えて。指
 小鳥の騒ぐる。是ぞ定ふ人夫と集あ。知縣が来るものなる
 べ。おやく急ぎ立さると。此処みて杖と分ちり。深雪の下く渦
 高き。落葉踏こけ木の根と渡り。相摸路さして急ぎたり

第十二回 天然姿色却困身

かくて知縣の下司梶木根深の兩人八人夫と集め樹林の中を探ど
 人の一個も居らむ。取ては知縣へ勸解する。あつたはとも術斗えぬ
 却とまづ里へ引く。衆後とて律と計るに。あつた人夫と卒と往還へ

走りぬるに彼方より。汗馬に鞭あて馳せりありのあり。と云推せん
 又久しに桂兵部が老臣なる。足柄三木六今一個八白浪寺にて討た。
 桂藏が家士大谷健六喜と並で飛来たり。兩人八号と云ると等一
 三木六が馬前に進む。膝行するに三木六も馬より礮と飛下り。兩個
 に向ひて礼正しく。此程松へあり。囚人はる。大谷健六が小田原表へ
 到着し。松へあつると羨りれ。主人を害せし技者あて。既に健六あ
 地へ下り。その逆賊と決断の席も連たり。野杉谷多門へ急地ふ
 自ら罪に伏せるといふも。本罪あてあるへうらむ。曾も下僕反助が
 言状あて察され。白浪寺こそ怪しむ。鬼もあつたも野化の僧と
 今一回八鞠問と。如此して罪咎を極められ。其主人の仇をれ。いふ

渠に紛るるあり。一太刀寛まうし居れど。愚案とめても量る。その罪なきぬハ頭怒ら。さまで自ら首伏せし。そを彼と云ふ。知縣もまきいし。夜を日に嗣で主家不馳つた。稍と語て。這回ハ直々訴へ奉らる。と律と符ふ言とふるん。主君兵部ハ沈吟し。のい既に自ら首伏し。その咎明らる。のる。万一此賊。多門にあり。時ハ本人の多夫に加ふる。茂平父子が罪咎も本意ある。頓々往と命に。汗馬に鞭あて走らば。刑罰に行ふ。と詞。問か。二人ハ其処に頓首して。今さら陳言。今日その刑不行ふ。と。如此と。杉倉伴作乱妨。茂平父子を逃せし。始終。杉藏人。と。怖。猛夫。這般。多門と。一伍一什と。三木六。苦笑。健六多門が。本意。三木六。足下。且雜式。杉坂。傳。野化の。事。大谷も。夫。馬。知縣。至り。彼。逸々。野。貪。始。さ。居。前後。詞。三木六。傳。歩卒。課。拷。巖。鞠。貪。

十本

十一

苦痛に堪へぬ。在りかまを逐一に首伏す。三木六が。さすれは茂平
父子ハ元より。多門においても其罪なき。杉坂藏人武邊を嗜む。その
先賊と平たる。いと賞と志き武士たり。嗟浅まや大谷が。訟へあぐ
す罪をた者と害して五逆の罪ある。賣僧の榮利を把り度嗟惜
む。くくと後教回歎息し。頓て賣僧の貪欲と。河原身出し首
と刎且卦左三門と始とて。根木根深がその職に。速に稍と微細
糾し。主君へ注進したる。推兵部ハ大に怒り。卦左三門始め三個
と。知行と没収し追放せらる。かて三人ハ詮方多。家族を俱して
立さるぬ。侍も大谷健六ハ心のまみく。主婦とと暇ハかひりた。と
心の裡はあまら。多門がう人と内室に。語る。内室はあひ。その吾姪ハ

疑ひあら。どう良人と殺せらる。憎ても於餘りある。技者
るれど汝がよて左に。あまむと察し。る。若ま。と渠が所なる
らむ。命と佐け連て来。兄ハ郎ハ人性。いと才弱るる。老
る。吾父と。と嫌ひの。推き時。川越の。杉谷間。か
清み任し。通路と絶て遣。り。後年の後に余。ある。ら
容子と。同ハ雄子と。一個持し。とい。同。た。辞世。り。と。あ
り。今に音信不通。るれど。僕。は廿年。なる。夫。疑ひ。あ
べ。を。頻々。ゆけ。と。宣。ふ。ら。馬の歩も。綱。く。き。まで。走。り。本。り。し
甲斐も。あ。命。ハ。佐。り。あ。り。と。い。何。方。へ。逃。去。の。ひ。ぬ。見。み。落
て。腹。と。さ。い。ら。打。し。と。宣。ふ。と。遠。く。ハ。走。り。の。ひ。ぬ。その。性。先

と索ゆんと夫より地の利を考へて。彼方此方と尋ねたり。説話
 分所頭ある小雪ハ圖らざる。徳徳の中の苦とさね父と俱々
 首刎らるんと河原へ引きて氣も潰つ現心もろりしと佐らる
 方嬉々さるま。まこと引くく悪鬼に被がとこれバ今ハえや。強
 果々正体あり。茂平ハ跡より逸足ゆぐ。漸くふして連着の
 汝等吾と侮りて女児と奪ひ何方へ往や。今速小返さすハ
 目小物えせんとい喚ひる。坐九郎跡と見えりて。嗟物々
 廣言する。あひの口と引裂て。體ハ微塵ふるに奴るれど小雪と
 娶るバ泰山刀称。好ま小命ハ佐て是も人。頼り歸りて罵り
 異口同音に曳声して。お小死人のどくる。小雪と被さる

めてゆけハ今ハ入るも堪うねて。茂平ハ跡よりさバかつと襟首
 んで引戻せば。坐九郎怒て予りやどき眼と睜り拳と予揚。丁々
 護矢とらち居る。打きて此方も拳と固め。年老りとも吾も猛夫
 汝等下まのち筆箆にるんと踊りかつと挑まあひ或ハ鬚と引
 腕と抱んで満面小血と沃ぎく。扱あみぬぞ。往過さる悪鬼。小
 雪と其の如へやとら下。一個ハ毛と捕へて居り。残る奴原。馬房り茂平
 が足と頰と把る。嗟やと脛むと起しもまを脊頰の嫌る。護矢と
 ろち居る。バ今ハ息交撓る。や敵はまき威勢る。坐九郎。渠等
 ふうち向ひ打殺して。面倒る。此まに。してゆぐ。往人と。泣草鞋
 めと踏つ。蹴久く吐と笑ふて弛さるぬ。茂平ハ。打懲さ。渾必



久夫と女
と説く
と憤怒
と震撃
と

赤黒班小腫或ハ皮とらう破アて鮮血さ滴且バ吾似あぐるも浅間
一奮撃手喰ふる物もろく何地までいとあども弱ヲ思ふる奥屋の
鳥軌の鮎の泣息吻き心弥武に勇むるも注方あるれば撞と餌
要時十方に暮かる日も没相ふありにたり悪見どもいほよりして
一里むりも走アてぬ彼坐九郎が家に至まバ小雪と其処へ抱た
下しつが水飲せ自と洗げバ稍くあして人心地はぐく又巴情
あや。坐九郎主よりゆるが吾倚と此処へ昇めて来ぬ。父の茂平も
俱々に纏襖いぬけても往方と知るむ放して帰くあはと泪ハ千筋の
滝の糸髪も心も赤まの。俯バ坐九郎脊とあでまのそな歎きこそ
茂平とバ吾守して好ある者お託くおたはれ嗟今頃も温まり氣

と易うして隠とあらん。おん此と此処へ誘ひハ先頃よりしてさあくと
心の丈と知らせても父の身前やさあぐの言ふ仮託らけおぼさまで
強面會釈うろ。あひ切づくあひても他生の縁う且暮は眼みち祭然
心みち。目りと口はき愛敬の。志とぐうて鬱々とあひても此土地
でハ人に狭者ととまらして。理非ハ鬼もあは齒の外へ漏く一ハ一寸
でも引らぬ漢子グ朝夕みあひ焦して箸さ入も。さらぬぬるりに弱
る心の底と推量して情の言ハありそ海らるあひの甘は此容とあひ
やまると懐きはく。小雪ハ袖りてらち拂ハ罵らんうとあども己を憐ま
四座よりハ。坐九郎が肩のり悪見詞に彼等と怒らしてハ悪目み
あんと情とら。驟と難と逃まんと。あひのうら微笑て。救るぬ皮と

躬までふ。あひのりる。用心の。しと有。ぐく。は。伝。き。も。吾。儔。推。き。その。折。
うら。此。に。宿。願。の。支。付。り。く。神。佛。の。愿。と。う。け。猶。此。年。に。至。き。も。
良。人。も。持。で。付。る。う。ら。は。是。み。て。推。し。の。り。て。その。宿。願。の。果。る。まで。漢。子。と。
漆。寐。る。の。ま。と。と。折。言。の。の。と。り。あ。は。し。今。さら。肌。と。露。ま。き。若。さ。も。
る。の。先。頃。より。誠。と。尽。し。情。と。と。て。口。説。の。み。と。吾。儔。も。女。子。元。より。木。
竹。の。心。も。ろ。ね。が。情。も。あ。ら。む。然。管。ふ。あ。ど。強。面。は。は。た。は。し。ん。心。志。の。
辱。み。さ。骨。の。折。り。も。忘。れ。付。く。も。さ。ら。は。愿。の。果。る。え。ん。心。不。従。ひ。
伝。え。の。も。い。ろ。え。此。が。躬。ま。で。ふ。吾。儔。と。あ。ひ。あ。ら。う。そ。は。ま。で。心。
変。ら。び。不。待。で。在。せ。と。使。り。も。坐。九。郎。の。折。り。寄。て。嗟。口。説。り。く。
応。永。時。代。の。校。者。と。敷。く。口。説。り。て。詐。変。ら。ん。と。い。ひ。坐。九。郎。と。

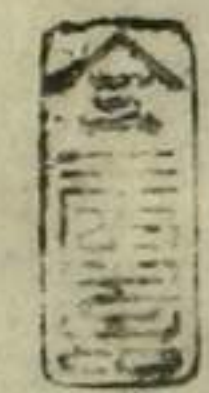
砂糖餅より耳くえて。をらぶと餅の大腹に。智慮と節と團子の玉
粉。くら。く。と。ころ。め。積。り。古。く。も。塵。も。附。焼。の。味。も。所。で。道。ま。ん。と。い。る。
とも。此。方。の。胸。中。の。撞。と。居。つ。の。鏡。餅。見。ぬ。と。此。如。へ。連。く。ま。と。今。
さら。否。と。い。言。さ。ぬ。ぞ。五。布。蒲。團。の。拍。餅。千。代。の。物。と。と。鶴。見。の。ち。
い。ろ。く。山。方。へ。と。子。を。把。て。矢。庭。小。奥。の。一。間。あ。る。屏。風。の。中。へ。引。の。て。
ゆ。け。バ。小。雪。も。今。の。詮。方。る。躬。ま。で。吾。儔。が。律。と。こ。の。勸。解。も。ま。う。で。
強。小。溜。が。ら。れ。た。身。と。い。余。の。小。執。念。き。挙。動。う。る。女。を。あ。ら。も。汝。等。
と。ま。き。無。頼。の。族。が。随。意。あ。ら。ん。や。其。の。如。離。さ。び。や。と。敷。圍。て。把。へ。腕。を。
手。の。放。し。逃。れ。と。ま。る。と。坐。九。郎。が。帯。と。緊。と。引。倒。し。威。と。の。く。心。不。
随。が。せ。く。い。その。真。其。薄。と。あ。ら。う。ろ。賺。く。持。へ。の。く。小。艶。き。言。葉。と。

りてまゝに其処へ着たる透とて逃んとせんとも逃さんや。しつこ心
 随がらまゝ生して帰してまゝ後に他る人の花ともまゝ見受て着て如
 まゝに申も添寐と嫌ふる。吾まご婚と嫌して眞土の旅へ嫁入せん。その婚
 がねハ此刀備前の国の家政とて世も名うた美男ぞや。光王輝く容
 とつんとすらすらりと扱バ玉きり。光りハ四方に散徹とて嗟とむろりに顛倒に
 在あハ横とうち被げ。要時又と支えても。坐九郎透ささふりまらせバ。
 彼方へ走つて屏風と指此方へ逃つて此と及せ片膝えそく跡後巡すこ
 撥潜りて撞と伏も。坐九郎早くも跨がりて又と襟の邊へあて。いづ氣
 強く従ふハ花の盛も夜嵐に散て跡なれ此とるハ今眼前ぞ喃小
 雪心定めて回答とせよと。穿て頭とらち擡げ。血むる眼もをらくと。泪

流してお惜や。女ふあ。びん女等如きの。自徒責まらん殺され殺せ世を
 ハッハ刺きて骨々ハ微塵ふあるとも争でみ不義の族に從ふべき人の必ハ
 如何なるら。右みぞ必ハ。いづらしと涙あふに罵りて。合破と伏バ坐九郎も
 今ハらく術計はき眼と睜と声荒く。いざバノるやと艶ある容よ引
 久膳太さ。いざと和女郎が望み任骨ハ寸々節々ハ微塵ふあて。いざ
 と刀と丁と把を直し。親よ突んとせ。所へ襖と颯と引あひて。や。待久坐
 九郎主可惜櫻の弱枝の花散して何の爲あなる。いづ心小随ぐま遠に
 津の宿妓女その血の代ハ西個して山吹色の山分に些温まる法こそあま。
 漫古くして怪我させる色帝宛ら古手も同様銀ある。劍小等一々千
 悔さるともその益あり。まぐくカと竹めよと言きて坐九郎寛尔と。

可愛さ余りて十倍の憎まのまに可憎し盛の花を伐んとせし嗟吾あま
 絶まこと得ハ刀自の兎とある其才賢き長五郎和主古詞のまふく
 計らん。さる道近くハ大碓。三河の国多國寄にハ妓女も数多ありら
 らる。雪屋ハ各みで。此の代多く出ると忌そ且みまうて洛陽ハ妓女の價
 尊しと人ハハハハ吾ハま。花洛ハ往ハ高すなく。その地利と才妻とせ
 如何ハ甘んと終まをハ長五郎ハ契沈吟し。吾も是も女をわて妓女
 小活らる夏ハあなれど母ハりりく。是等の高よ巧をひらる者小あり。
 先頃小畑の騷動より。家と捨て妹との馬入川の邊小居まり。近頃
 さける活業あ辛ト思らる赴あは。此女をわて。彼処へわた。活バ
 速小。整ふ術のありぬ。心つむとせ。坐九郎頻小。夜は

誠まことに僥倖まよひある。此処こゝハ知縣ちけんの莊やまも近ちかく若人わかしあめ、うら松まつるが彼のかれの尾おのと
 面倒めんたうる。殊こと小茂平こもうへいがわりの。且またもあまうらるさる事ことあり、いづく
 僕わがふまわりの。ん。彼かれ知し小居おまる人々ひとも告つあまうて駕かと雇やつじ小雪こゆきと
 衆しゆと走るべしと衆しゆ一決いつけつふ及びおよび。ハ悪見わるみ等らハ夫おとこよりして駕かと雇やつ
 夜よふ紛まれと歎なげく小雪こゆきと傳つめて駕かへお。ハ括くわく。山坂やまざか難がた野のの嫌きらひ
 あり。馬入川まにがわさして急いそぎめく



十本抄 卷之六 終

